

欲しいのは、着た瞬間から「味」なシャツ！／大人の短パンは膝丈&ネイビー基準！

MEN'S CLUB

2013 July No.629
http://www.mensclub.jp/

07 30代の
財布にやさしい
雑誌です。

COVER STORY

香川照之

Esquire

SPECIAL EDITION

別冊付録 エスクァイア

華麗なる
ギャツビー
立体特集

あの社長のプライベートを激写！
「社長、土曜日何してます？」

今年はどれ買う？ 何枚買う？
2013ボロシャツNEWS

平山浩行が着る
ディオール オム

おしゃれな手元、最新SNAP！
今年のブレスは
“ガツンとブランド”か
“細ジャラづけ”

大人の街ばきには、品が重要！
短パンは膝丈&
ネイビー基準！

頑張りすぎよりも、自然体が心地いい今、
大人が着たいシャツも変わってきた！

欲しいのは、 着た瞬間から 「味」なシャツ！

- リネンシャツが洗い加工に限るワケ！ ●簡単テクで差がつくシャツ姿
- 使えるのはデニムシャツよりシャンブレー
- オックス賢者がディープに語る！ 今買いたいオックス
- トレンドシャツの着こなし完全攻略 ●シャツマニアなスタイリストの“納得白シャツ”
- あの恵比寿マスカッツ復活!? 大人のシャツメンテ♥

今月のEXCLUSIVE

- ルイ・ヴィトンのモノグラム×チェックのストール
- シーグリーンの“グレスラ風”パンツ
- J.ブレス×オープニングセレモニーのジャケット
- テバ×ヘザーグレーウォールのサンダル

メゾン タクヤは次世代のラグジュアリー

すべて手作業の圧倒的なクオリティー

ラグジュアリーとは何だろう。高額ゆえの自己満足？ 他人への優越感？ きっとそんな薄っぺらなものじゃないはず。本当の“贅沢”は鍛え抜かれた職人の手作業のなかにある。官能的な手触り。使い勝手のよさ。そして飽きずに使い続けられること。メゾン タクヤとは、それらすべての集合体です。

Photograph / Keiichiro Fujimoto (A.K.A.) Text / Tsuyoshi Hasegawa(04) Design / mashroom design Edit / Daisuke Fujikura



繊細なステッチ、綺麗なコハも
全てハンドメイド



美は細部に宿る！
必見のコバやステッチ

その筆製品が本当の意味でラグジュアリーなのかどうか。遠くから見ると取れるのがステッチとコバの磨き部分です。メゾン タクヤの製品はすべてが完全手縫い。さらに手縫いのかかるコバ磨き。時間を要する工程を5回も繰り返すほど。大手ブランドでも昨今は樹脂で塗り固めてしまうことが多いなか、長く使えるようにと手間ひまをかけて仕上げています。縦7×横9.5cm。各1万2600円（メゾン タクヤ/ファール 03-5464-6993）

味のある迷彩コレクション



小粋にハズしたいときは
こんな迷彩クラッチが理想

小粋に抱えて持ちたいハンドルのクラッチバッグ。シルバートーンに輝く大きなジッパーが、洒落たアクセントになっています。マチなしなので非常にスマート。トートバッグなどのバックインバッグとしても邪魔になりません。ワイルドなカモフラージュ柄はインパクト充分。ハズしアイテムとしても効果的です。縦17.5×横25cm。4万8300円（メゾン タクヤ/ファール 03-5464-6993）



マチ付きカードケースなら
名刺切れの心配要らず

上掲の薄型に加え、営業マンにもうれしい収納力抜群の厚マチ付きカードケースもラインナップ。メインのポケットに加え、2個のスリッポケット付きで整理もしやすいレイアウト。フラップ状のフタはボタンではなくマグネット留めなので見た目も非常にスマート。ちなみにマチや内装は単色のカラフルレザーをあしらっています。縦7×横10.5×マチ1.5cm。1万5800円（メゾン タクヤ/ファール 03-5464-6993）



使い勝手も収納力も抜群！
ジップ式の長財布

3方開きのジップによる長財布。フランスの高級ブランドでも成しえないジッパーの縫い付けも手作業にて仕立てた逸品。そのためジップパーツは特別なおダー用品を用いています。ほかの迷彩グッズ同様、この長財布も高級のゴートスキンを使用。アイリッシュ仕上りのゴートスキンはしっかりと官能的な手触りがポイントです。縦9.5×横19×マチ2cm。6万3000円（メゾン タクヤ/ファール 03-5464-6993）

MAISON TAKUYA

男を引きつけるその理由

今いちばん、革新的なブランドとして語られるメゾン タクヤ。特に注目すべきは圧倒的に抜きん出た3つのエッセンス。

理由

理由 2

数々の名品を手がけた
気鋭のデザイナー



フランス生まれのディレクター、写真家、そしてインテリア&プロダクトデザイナー。さまざまなジャンルで活躍するフランソワ・ルッソ氏。著名インテリアデザイナー、アンドレア・ブットマン氏に同社の経営を任せられるなど華やかなキャリアをもち、ラグジュアリー業界を熟知する人物。その業務や交流のなかで失われゆく職人文化を愛しメゾン タクヤの理想を練ることに。08年にオーナーデザイナーとして同ブランドを立ち上げました。

選び抜かれた
逸品革のみを使用



手作業にこだわる一方、素材にも吟味を尽くすのがメゾン タクヤの流儀。世界中から最高の革材をセレクトしています。たとえばこのトート。ドイツ、ベリンガー社の高級シュランゲンカーフを使用しています。柔軟でありつつ張り感を備えているため、芯材を用いない完全一枚仕立てでありながらしっかりと自立するのです。全具も使用していないので錆や破損とも無縁。縦32.5×横33×マチ17cm。9万9750円（メゾン タクヤ/ファール 03-5464-6993）



理由 3

細部まで緻密なハンドメイド



すべての製品を
手縫いのみで作成

すべてが手作業でおこなわれるメゾン タクヤのプロダクト。当然、ステッチングもひと針ひと針職人の手で縫われています。使用する麻糸がミシンに通さないことも手作業する理由ですが、もうひとつにミシンステッチはほどけやすいという難点があるのです。たとえば1カ所糸が切れてしまっても、2本糸を交互に縫い合わせる手縫い式の縫い目は、ミシン縫いのようにコババラとほつれることがないのです。



なんとジッパーパーツまで
手作業にて取り付け

手縫いの皮革製品は減少しつつも一部のブランドで継承されています。しかしジッパー部分まで完全手縫いとなるとハナシは別。非常に手間がかかってしまうため、ほとんどのブランドがミシンを使用しているといえます。メゾン タクヤでは仕上りにこだわり、ジッパーに付属する地布までオリジナルで発注し手縫いを実践。美へのこだわりは通常気づかれにくい細部にまで及んでいるのです。



磨き上げることでヘタレ
知らずの美コバになる

皮革製品の製造においていちばん時間を要するのが仕上げ工程。なかでもコバ磨きは重要です。ヤスリがけからはじまりインク塗り、蜜蝋掛け、磨きまでがひとつの工程。それを4〜5回繰り返すことで初めて堅牢なエッジが完成するのです。自然な外観でありながら使えば、自然でも色落ちせずヘタレないのが、手磨きによるコバの特長。簡易な樹脂仕上げやヘリ返し仕上げとは耐久性と美しさが段違いなのです。

ミシンがまったく
存在しない革工房

デザイナー、フランソワ・ルッソ氏は、現在の先進国では真の意味でのラグジュアリーな製品作りが難しいことに気づいていました。ヨーロッパにおける優れた手仕事の伝統を廃れさせず、さらなる発展を目指すには……。そこで活動拠点をアジアに求め職人の育成に心血を注ぎ、メゾン タクヤを立ち上げたのです。ブランド名は、フランスとアジア、特に日本とのハイブリットをイメージして付けられたもの。「アジア人ならではの繊細な感性、手先の器用さを生かした職人的な物作り」を体現しています。

メゾン タクヤにおいて注目すべきは完全手作業ということ。革の裁断はもちろん縫製やジッパーの取り付け、仕上げ作業に至るまですべて人の手でなされています。しかしなぜ今、手作業なのか？ それは長く心地よく使えるための唯一の方策だから。最高級のソフトな革材はその状態を考慮しつつ縫うことが機械では難しいのです。さらにミシンは繊細な麻糸や柔軟な絹糸の使用に適しません。また、長く使うための処理としてコバ磨きは必須工程。手縫い作業の数倍ほどかかる時間を費やし丁寧に磨くことで、亀裂が入りにくく革の質感豊かな美しいエッジに仕上げることもできるのです。これは簡易な樹脂仕上げでは絶対に得られない特質。また、伝統的な手作業だけが同ブランドのすべてではありません。デザインはモダンな感性をもつフランソワ・ルッソ氏が手がけ、最新のCADにて図面が引かれています。また、これだけのスペックを有しながら生産拠点をアジアに据えているため、価格が抑えられているのも見逃せない特徴です。まさにその内容すべてが次世代ラグジュアリーと呼べるものです。だから世界中で注目されているのです。